



# 南中だより

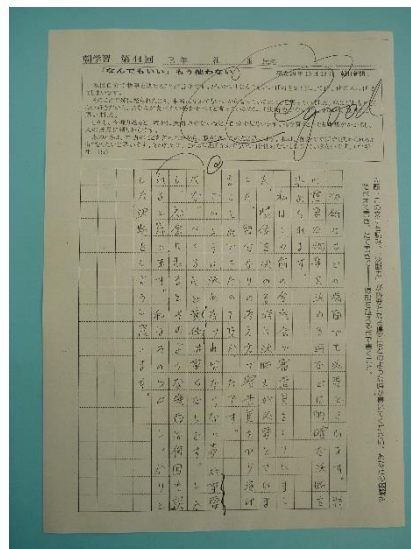
平成29年11月15日  
東久留米市立 南中学校  
校長 川上 智

## 「書く力」の育成 育て「思考力・判断力・表現力」

11月1日現在、4月から46回実施

変化の激しい予測困難な社会の中においても、子供たちが主体性をもって活動し未来を切り拓いていくために必要な、思考力・判断力・表現力の育成は今後、一層重要な教育課題となります。そこで本校では、自分の思考を深めつつ、一層論理的で説得力のある文章を書くことができるよう、週に2回、朝学習において「書く力」の育成に努めています。

子供達は毎週水曜日と金曜日、朝学習の10分間で新聞の投書を読み、理由を添えて構成を意識し、自分の意見や考えを300字で書く活動に取り組んでいます。国語科の教員が投書の中から題材を精選し、学力向上指導員が全校生徒の添削をしています。



4月から現在までの、子供達の変容の一端をお知らせします。

### 【国語科の評価】

全体の傾向

書くことへの苦手意識がなくなった生徒が多い。書き出しがスムーズになった。

3年生

論理の展開を工夫して、読み手が理解しやすいよう効果的に書くようになった。

2年生

文章の構成を考えながら、一般論ではない自分なりの意見を書くようになった。

1年生

進んで文章を書いて、自分の意見をまとめようとするようになった。

### 【生徒の声】

- 思考力が身に付いてきたと思う。前までは自分の意見を述べて感想を一文だけ書いて終わってしまったのが、今は一つの意見について理由を書いて結論を書くという構成ができていると思う。(3年生)
- すらすらと文章が書けるようになった。また問われていることを理解するのが早くなったと思う。最初は面倒だと思ったが、テストのとき、朝学習でコツコツ練習してきた成果が出たのでやっつけて良かったと思った。(3年生)
- どのように書いたら自分の考えや伝えたい事が相手に確実に伝わるか考えながら書くようになった。(2年生)
- 小学生のときは作文を書くのに、すごく時間をかけて書いていました。でも最近は書くことが頭に浮かんできてスムーズに書けるようになりました。(1年生)

作文が課される都立入試を考えて、もあると思いますが、3年生の大多数がこの取組をととても前向きに捉えています。各種学力調査の結果から、思考・判断・表現力が確実に身に付いていることが分かるよう、今後もしっかりと取り組んでいきます。

## グローバル人材の育成と「書く力」の育成に思う

ある経済誌にあった一節です。

海外の人たちとの会議では、誰がどんな考え方をするのかを議論を通じて確かめている。発言しない日本人は「何を考えているか分からない」と言われる。自分自身の意見をしっかりと主張できる人を育てることがグローバル人材を育てること。もはや日本人が得意とする「以心伝心」「あうんの呼吸」は通じない。

自分の考えを明確にして、説得力をもって論理的に伝えることは、「書く力」と表裏一体に思えます。そして「書く力」の育成はグローバル人材を育てることに直結すると思うのです。

世界は異なった価値観をもつ個性豊かな人々から成り立っています。それらを互いに理解し尊重する事が重要です。多様性を認めることがグローバル人材の根幹といえます。そこで、本校では多感な中学生のうちに、海外の人たちと直接交流し、文化や価値観の違いについて身をもって経験できるよう、ノースカロライナの学校との交流を始めました。

子供達には、論理的思考を育み、相手の意図や考え方を理解し尊重しつつ、自分自身の意見を臆せず積極的に世界の人々に伝えるなど、良好なコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けて欲しいと願っています。

## 学校給食における食物アレルギー対応について（お願い）

市内の学校で、給食を摂取したことによるアレルギー発症事例の情報がありました。多くの事例は、生徒、保護者が食物アレルギーに関する症状を自覚していたにも関わらず、学校に相談や報告がされていないことが原因とのことです。改めて保護者の皆様には、食物アレルギーの危険性についてのご理解と学校への報告、相談等について格段のご協力をお願いいたします。